



令和7年 2月28日
3月号 No.471
発行責任者
校長 西村 学徳
所在地 福生市熊川 623

幼保小中連携からの学び

副校長 浅井 博行

今年の2月は、例年になく寒暖差が激しい月となりました。保健室前の梅の花もいつもより早く見ごろになっていたように感じます。令和6年度も最後の月を迎えることになり、子供たちは一年のまとめ、次年度への準備、6年生にとっては新しい生活に向けて日々過ごしています。

今年度本校は、幼保小中連携事業の一環として、近隣の幼稚園・保育園と連携して交流を深めてきました。子供同士の交流として、1年生は、園児と一緒に展覧会の共同作品を作りました。5年生は、就学時検診で園児の案内をしたり読み聞かせをしたりしました。また、先週(21日)も4つの園から園児が来校し、5年生がこれからの小学校生活を紹介したり、校内を案内したりしました。園児の皆さんは、小学校生活への見通しをもつことで安心して入学できるきっかけとなったのではないかと思います。5年生としては、幼稚園・保育園の園児と交流することで学校生活をどのように伝えたら理解してもらえるか考え、園児が楽しめる活動やわかりやすい言葉を使うよう意識して計画しました。活動を通して、相手意識と自分の役割に気付き、成長するきっかけとなりました。

また、小学校は中学校とも連携しています。6年生が福生第一中学校を訪問し、授業を見学したり、学校生活について理解を深めたりしました。6年生は、中学校生活がどんな生活になるのか見通しがもてたと感じています。教職員同士も、一中校区として、福生第三小学校・福生第一中学校との交流を通し、スムーズな接続ができるように意識しています。担当する学年の児童がどのような学びをしてきて、これからどのような学びが必要なのかという視点で、目の前の子供たちに今必要なことを指導していくことが大切です。

子供が伸びる時期は人それぞれです。また取り組んだ成果が、すぐに結果では現れないかもしれません。学校には、学年という区切りがありますが、その一年で全て完結するものではありません。これまで積み重ねてきた経験を理解したうえで、今後の成長していくであろう姿に見通しをもち、次につなげていくことが重要です。今後も幼保小、また小中において円滑な連携を進め、子供たちの「知」「徳」「体」を育てていきたいと思っています。